

# 星が丘地域学校園だより

令和4年度版

## 星が丘地域学校園教育ビジョン「未来を見つめ、学び続ける力の育成」 ～星が丘地域学校園の学校文化を築くことを通して～

今年度についても、新型コロナウイルス感染症の影響により様々な教育活動が制約を受けましたが、昨年度に比べ多くの地域学校園の活動が実施できました。それらのことについてのご報告となります。

### I 交流推進部会

#### (1) 中学校から小学校への乗り入れ授業

星が丘中学校から3小学校に、8名の職員が訪問し乗り入れ授業を行いました。小中教職員の相互理解や指導の工夫・改善を目指すことを目的としています。また、中学校の職員による授業を体験することで、小学校6年生の中学校学習に対する不安の解消を図ることも目的の一つです。数学（算数）、英語の2教科で実施しました。



【英語の授業】



【数学（算数）の授業】



#### (2) 小学校6年生の進学先中学校訪問

卒業を間近に控えた6年生に対して、中学校進学への期待を高めたり不安の解消を図ったりすることを目的として行われる活動です。

今年度は1月20日（金）に実施され、中学校生徒会の執行部から、直接中学校の生活や学習の話聞き、実際に授業を参観しました。部活動については、スクリーンによる映像で様々な活動のようすを視聴しました。中学校の生活について知る良い機会になったことと思います。



【学習と生活についての紹介】



【授業参観（美術）】



【映像による部活動紹介】

## Ⅱ 学習部会

### 1 学力向上分科会

#### 【星が丘中学校】

「自らの考えを進んで表出する生徒の育成」・「本時のねらいを共有し、目的をもって学ぶ生徒の育成」

本校では、上記の生徒を育成するため、①確かな学力の定着、②自ら学び、自ら考える生徒の育成、③1人1台端末機器の活用を重点課題とし、主体的・対話的で深い学びの実現に向けた授業を実現することで「思考力・判断力・表現力の育成」を図っています。

#### (1) 基礎・基本の定着を図るための各教科での取組

①「本時のねらい」を明確にした授業の展開と振り返り活動の定着、②eライブラリを活用した基礎・基本の定着のための反復学習、③「自主学習ノート」の活用による家庭学習の習慣化、④「5つの約束」(授業の約束)、2分前着席などの取組により学力を向上させ、学力調査等においても良好な結果となっています。

#### (2) 「主体的・対話的で深い学びの実現にむけた授業の工夫」

自らの考えを進んで表出するために、教室備え付けのホワイトボードや1人1台端末を活用し、「考える場面」のある授業を実践することで、「課題をつかむ」→「話し合う(考える)」→「まとめる」→「発表する(表現する)」活動が定着しています。また、総合的な学習の時間を中心とした探究的な学習活動では、自分の考えを表出したり、意見を交換したりしました。さらに、疑問点を話し合うだけでなく、個人の端末でさらに深く調べたり、発表するための道具としても活用したりし、思考力・表現力も向上してきています。

#### (3) 「学力向上プロジェクト」

##### 授業力向上を目指した校内研修会の充実

今年度は理科と美術科の2つの要請訪問を行いました。理科では、本物の豚の小腸を使った実験を通して、消化の意義について探究による学びを深める授業を行いました。研究協議では宇都宮市教育委員会指導主事から「主体的・対話的で深い学びを実現するための授業改善」についてのご指導をいただき、授業を参観した教職員同士の活発な意見交換がなされました。美術科では、ICT機器を利用した授業の創造として、葛飾北斎とゴッホの作品を生徒のタブレットに提示し、色や形、構図などから共通点や相違点を捉える鑑賞の授業を行いました。生徒は、それぞれの作品のよさや美しさだけでなく、1つの作品は様々なものに影響を受けながら創造されていることに気づき、造形的な見方・考え方を深める鑑賞活動となりました。



【戸祭小学校】

「主体的に考え行動する児童の育成～学ぶ楽しさを実感できる算数授業の工夫～」

本校では、本人たちの「話したい」「発表したい」という意欲は大切にしながら算数科での授業実践を通して、根拠を明確にしながら筋道を立てて説明したり、相手に合わせて伝え方を工夫したりすることができる児童の育成を目指しています。

本年度は、算数科における2回の要請訪問や人権教育、学校給食研究会等を通して、全職員で授業改善に励み、目指す児童の育成に取り組みました。

<p>1年算数「20より大きいかずを かぞえよう」 数え棒を使用し、10ずつ束ねることで誰が見ても数が 分かりやすくなることに気付く授業</p>	<p>2年算数「数をいろいろな見方であらわそう」 392を位に着目したり、他の数字と大きさを比べたり して多様な見方に触れる授業</p>
	
<p>3年学級活動「よりよい給食の時間にするための目標を 決めよう」 栄養士と協力して給食ができる過程を学び、給食への関 わり方について具体的な目標を自己決定する授業</p>	<p>4年算数「除法のきまり」 わられる数とわるる数に注目して、わり算のきまりに気付 く授業</p>
	
<p>5年外国語科「He can run fast. She can do kendama.」 人権教育の視点を取り入れた外国語科の授業で、互いの 特技やできることを伝え合った授業</p>	<p>6年算数「拡大図をかくために必要な情報を見つけよう」 作図をする際に全ての辺や角を調べる必要性の有無につ いて、自分たちで調べて考え、気付いていく授業</p>
	

【昭和小学校】

「主体的・探究的・協働的に学ぶ児童の育成～自他のよさに気付き、自己肯定感を高める授業づくり～」

本校では、学習課題と解決への見通しを持ち、問題解決への意欲を持ち続けさせること、学習内容に適した学び合える活動等を取り入れ、児童一人一人の意見を生かした授業を行い、振り返ることを通して自他のよさに気付かせることで、主体的・探究的・協働的に学ぶ児童を育成しています。

特に宇都宮モデルとして掲げられた授業力向上カスローガン「はっきり！ じっくり！ すっきり！」の流れに合わせ、次のようなことを意識した授業の展開に努めています。

- ・学習課題と「見通し」から、本時で行うことをはっきり理解させ、課題解決の意欲をもたせること
- ・児童生徒一人一人の学びを見取り、適切に支援し、じっくり課題に取り組ませること
- ・課題に対する結論をすっきりまとめ、本時の学習を振り返らせること

本年度は、市教育委員会の指導のもと、理科を中心に2回の要請訪問、また、人権教育や一人一授業等を通して、全職員が研究テーマを意識した授業づくりに励んでいます。

<p>3年 「風とゴムのはたらき」 差異点や共通点を基に、問題を見出す力を育てる授業</p>	<p>4年 「電気のはたらき」 既習の内容や生活経験を基に、根拠のある予想や仮説を 発想する力を育てる授業</p>
 <p>時間を十分に確保することで、活動しながら 気づき→問題→気づきと、学びが深まる 姿が見られた</p>	 <p>「根拠のキーワード」を手掛かり に、生活体験とも結びつけながら、 実験の予想を立て、問題解決にあた る姿が見られた。</p> <div data-bbox="1283 1043 1474 1319" style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <p><b>根拠のキーワード</b></p> <p>大きさは？ 重さは？ 長さは？ 量は？ 速さは？ 時間は？ 向きは？ ならび方は？</p> </div>
<p>5年 「流れる水のはたらき」 予想や仮説を基に、解決の方法を発想する力を育てる授業</p>	<p>6年 「てこのはたらき」 より妥当な考えをつくり出す力を育てる授業</p>
 <p>自分たちが知りたいことを確 かめるために、仮説に基づい て実験の計画を立てた。実験 の妥当性について話し合う姿 が見られた。</p> <div data-bbox="555 1794 794 2092" style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <p>けずられ方に違いができたのは、なぜだろう。</p> <p>仮説を立てて、けずられ方の違いを調べる実験の計画を立てよう</p> </div>	 <p>ICTを活用し実験結果を共有することにより、短時間でグループ間の結果を比較できた。より妥当な考えを生み出すのに有効な活動であった。</p>

【上戸祭小学校】

「思いを豊かに表現し、自分の考えを深められる児童の育成～国語科における主体的・対話的な活動を通して～」

本校では、自ら学ぶ意欲をさらに高め、友達や自身をはじめ、様々な対象との対話を繰り返す中で自分の考えを深め、それを多様な方法で効果的に伝え合える児童の育成を目指しています。

本年度は、市教育委員会の指導のもと、国語科における2回の要請訪問、また、人権教育やプログラミング教育、一人一授業を通して、全職員で授業改善に励み、目指す児童の育成に取り組みました。

<p>3年生：国語 「ほげんだより」を読むくらべよう 教材文に線を引くことで、理由を明確にしながらか自分の考えを書いたり、一人一台端末を利用して自分の考えを可視化したりすることで友達の考えと比較しながら自分の考えを深める姿が見られた。</p>	 <p>理由を明確にして自分の考えを伝えていく。</p>	<p>2年生：国語 サツマイモのそだて方 想定した二人の人物に対して、自分ならばどちらの文章を勧めるかという視点を持って考えさせることにより、主体的に意見を伝えようとする姿が見られた。</p>
<p>1年生：国語 はっけんしたよ 小グループで観察するポイントに沿って質問し合う活動を取り入れることにより、対話から自分の考えを整理し、深める姿が見られた。</p>	 <p>語彙を豊かにするための取り組み</p>	<p>6年生：学級活動 〈人権〉携帯電話とインターネット～通信機器活用時のよりよい人間関係づくり～ 意見を交換する際に、アサーションを意識させることで、相手の心情を想像しながら意見交換する姿が見られた。</p>

2 道徳分科会

(1) 今年度の活動と成果、課題

- ① 学校行事や表彰等を自己肯定感の醸成に繋げることができた。
- ② 帰りの会等で称賛の場を設けたり、人権教育と関連させ「ありがとうカード」の活用を図ったりして、自己肯定感を高めるようにした。さらに、日常生活においても、認め励ます教師の言葉かけを増やすようにする。
- ③ 各教科の授業において、児童生徒同士の相互評価の場を意図的に設定し、さらに、自己肯定感を高める機会を増やすようにする。
- ④ いじめゼロ強調月間に関連付けて、いじめに関連する教材を年計に位置づけ、実施することができた。
- ⑤ クロムブックの効果的な活用が進んだ。小学校高学年では、話し合い活動を活発に行うことができるよう、ジャムボードの共同作業機能やスクールタクトの共同閲覧機能を活用した。事前・事後のアンケートも効率よく活用できた。中学校では、教科書教材の内容の関連動画を視聴させ、生徒の興味・関心を高めるなど、効果的に活用した。小中学校とも、さらなる活用法を模索する。
- ⑥ 引き続き、授業で学習した道徳的価値についての知識・理解を実生活に活用するよう見守り、支援していく。

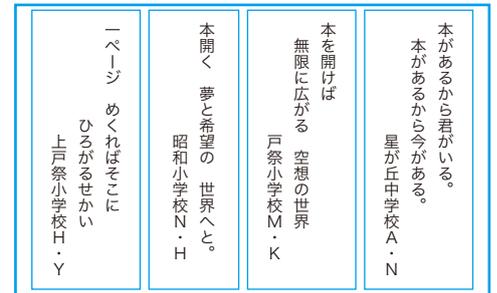
(2) 来年度に向けて

- ・今後も児童生徒の自己肯定感を高めることを意識した指導を行う。
- ① 「個性の伸長」と「思いやり・親切・感謝」に重点をおく。
- ② 教師と児童生徒とのやりとり、児童生徒同士の話し合い活動の中で、お互いの発言・意見を認め合う雰囲気醸成に努め、自分と異なる意見にも寛容に、本音が言える環境づくりに努める。
- ③ クロムブックの効果的な活用方法をさらに広げる。
- ④ 社会情勢における現実的な課題や、身の周りの様々な課題への問題意識を高め、日々の生活の中で人権感覚を磨いていけるようにする。(人権教育と関連づけて)

### 3 図書分科会

#### (1) 今年度の活動と成果、課題

- ① 「読書の質を高める」ことを目標に、学校図書だよりの職員向けを発行したり、朝の読書の時間や図書室利用時の選書について見直しを提案したりした。また、図書だよりやブックトーク、読み聞かせ、図書室内のコーナー設置などで、良書を紹介した。
- ② 「スター☆文庫」（星が丘地域学校園推薦図書）の推進として「スター☆文庫」コーナーの設置をした。「ほんよみnet」（学校園図書だより）ではその本の中からクイズを出題し、取組を促進した。プレゼントの「しおり」も好評を得た。
- ③ 「相互貸借」では、小中間で読み物と調べ学習用の本を貸借し、学園内での様々な情報交換（各校の図書だよりの交換・掲示をした。お薦めの本の紹介カードの巡回と掲示、各種情報の提供なども行った。
- ④ 「読書標語」の募集と掲示では、読書の意識を高める目的で実施した。
- ⑤ 「本とのコラボ給食」では、SDGsの意識を高めるべく、15番目の目標の「陸の豊かさを守ろう」をテーマに本を紹介、掲示した。



↑ 星が丘地域学校園図書館読書標語

#### (2) 来年度に向けて

- ① 生徒用PCと図書を併用した調べ学習に対応すべく、図書やリーフレットなどの紙の資料をさらに収集して提供できるように準備し、司書も授業に参画していく。また、情報活用能力向上のための指導・支援をしていく。クロムブックやメディアを使い、図書や図書室に関する情報の発信を増やしていく。
- ② NIE（教育に新聞を）の取組として、SDGsと絡めて、新聞記事をスクラップしたり、掲示したりして、関心を持たせる。また、授業へもその記事を提供していく。
- ③ コロナ対策として、様々なメディアを利用しながら、ブックトークや読み聞かせ、集会やイベントをさらに実施する。図書室来室の機会・貸出冊数を増やす工夫として、朝の読書の時間も有効に使っていく。

### 4 キャリア教育分科会

#### (1) 今年度の活動と成果、課題

- ① 「宮・未来キャリア教育」の加除訂正を行っている。新しい教育課程や学校行事の内容との一致を再確認している。
- ② 「キャリアパスポート」の実施を行っている。各学年2回以上の実施を行っている。  
小学校：運動会や持久走大会、冒険活動教室、修学旅行など学校行事の後に書かせている。  
年度中に保護者にも2回振り返りを書いてもらい、保護者との連携を図る一助となっている。  
全校：年度当初と年度終わりは必ず記入させている。
- ③ 新型コロナウイルス感染症への対応が進み、各学校における学校行事が少しずつ実施の方向になって、キャリア教育に関わる学校行事で実施できたものも増えてきている。

#### (2) 来年度に向けて

- ① 今後も「キャリアパスポート」の実施などを通して、児童生徒たちに何か目標を立てさせ、それに向かって努力・準備をさせ、実施し、達成感を持たせる。
- ② 「宮・未来キャリア教育」の加除訂正を続け、小中で連携して引き続き指導に当たる。
- ③ キャリア教育に関わる学校行事が来年度は完全に実施され、まとめが作成できると良い。

## Ⅲ 体力向上・食育部会

### 1 体力向上分科会

#### (1) 今年度の活動と成果、課題

今年度の成果としては、各校独自の検定表を持ち寄り、水泳に絞って検討を進めることができました。検定項目を決定し、実践していくことが次年度の課題です。また、「疲れる鬼ごっこ」についても各校の実践を持ち寄り共有できました。分科会で共有した鬼ごっこを試し、新しい実践を試みていくことが課題として挙げられます。来年度も引き続き「運動に進んで親しめる子」を育てていきたいと思えます。

## (2) 来年度に向けて

- ① 水泳の検定項目の決定と実施を目指す。
- ② 「鬼ごっこ」は、引き続き実践例を集める。
- ③ 昭和小で取り組んだ固定遊具を使った運動の事例（ミッション）を自校化し、取り組む。

## 2 養護分科会

### (1) 今年度の取組

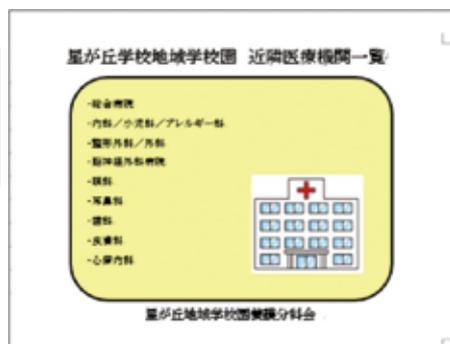
星が丘地域学校園養護分科会では、生涯にわたり心身ともに健康な生活を送ることができる児童生徒を育成するために、『9年間を見通した生活習慣の確立』を目指し、取組を行っています。

### (2) 成果

- ① 教材・備品の整備と有効活用
  - ② 歯科の健康教育の実施（歯垢染め出し）・・・実施学年：小1・中1
  - ③ 近隣医療機関一覧の更新
  - ④ 就学时健康診断の相互支援
  - ⑤ 児童生徒の情報交換会（3月に実施）
- ・継続的な心身の保健管理を行っていくために情報交換を次年度も行っていく。



染め出しを行い、みがき残しがないか確認をし、自分の歯みがきの課題に気付くことができたようである。



## 3 食育分科会

### (1) 「おにぎりの日」「お弁当の日」の実施

今年度は、各校の日程で「おにぎりの日」を、学校園統一テーマを「色の濃い野菜を2品以上取り入れよう！」とし、12月1日(木)に「お弁当の日」を実施しました。各校発達段階に応じた事前の計画カード、事後の振り返りカードを活用し、実践しました。保護者から頑張ったことをほめていただき、うれしい体験となった児童生徒が多く、食材や料理方法への関心を高めることができました。また、自分のために食事を作ってくれることへの感謝の気持ちをもつことができました。



\*早起きをして作ったおにぎりやお弁当です\*

### (2) 学校給食週間

1月24日(火)から30日(月)の全国学校給食週間には、テレビやお昼の放送を使って給食週間にちなんだ献立の紹介やクイズを行い、給食への関心を高めることができました。また、日頃お世話になっている給食調理員さんへの感謝の気持ちを伝えることができました。



\*放送で献立を紹介しました\*



\*給食調理員さんへのお礼の手紙を渡しました\*



### (3) 日々の給食指導

星が丘学校園では、各校給食時や児童生徒の委員会活動を通して食育指導を行いました。給食時に献立や一口メモで料理の紹介を行ったり、マナー週間を設け、食器の配置やはしの持ち方等を放送して知らせたりしました。この活動を通して、正しい配膳の仕方やマナーを身につけることができました。

コロナ禍における食育指導としては、基本的な感染対策の徹底・継続を心がけ、手洗い・消毒、黙食、咳エチケット等の指導を行いました。



\*給食時の活動の様子です\*

## 4 栄養職員分科会

### (1) 仲良し献立 (1～2月)

「目指せ完食！栃木の名物をもりもり食べよう！」をテーマに星が丘中学校の生徒に給食の献立を募集し、地域学校園の4校の児童生徒の投票により決まった献立を、各校で実施しました。

	A	B	C
	ごはん 牛乳 ソースカツ かんばんのナムル にらと卵のとろとろスープ いちごゼリー	わかめごはん 牛乳 モロの竜田揚げ 磯辺和え けんちん汁 いちごゼリー	ごはん 牛乳 揚げぎょうざ にらともやしのナムル かんばんと白菜の卵スープ いちごゼリー
昭和小	62人	172人	90人
戸祭小	124人	320人	159人
上戸祭小	84人	261人	119人
星が丘中	183人	245人	121人
合計	453人	998人	489人



【作成者より】わかめごはんは、みんな大好きなので、完食しやすいと思いました。磯辺和えは緑の野菜が入っていて良いと思いました。また、栃木県といえば「モロ」竜田揚げにすると満足感が得られます。冬のとても寒い時期なので体が温まるけんちん汁も加えました。栄養いっぱい、栃木の名物がはいった給食を、完食目指して、たくさん食べてほしいです。

### (2) 本とコラボ給食 (10～11月)

本にちなんだ料理を給食に取り入れ、各学校の図書館でその本を紹介しています。今年度はSDGsの目標15「陸の豊かさを守ろう」より「オランウータンに会いたい」と「ゾウの森とポテトチップス」の本にちなみインドネシア料理の献立でした。各学校で図書室や給食室前の掲示コーナー等を活用し、本や料理についてお知らせしており、児童生徒は楽しみにしています。

【献立】  
ナシゴレン風ごはん 牛乳  
チキンバーベキューソース  
ソト・アヤム カットパイ



## Ⅳ 学校生活部会

### 1 児童生徒指導強化連絡分科会

今年度は、「自己肯定感を高める指導の充実」という全体テーマのもと、本分科会では「社会的な自立を目指す指導の充実といじめ・不登校対策の強化」を重点目標として「あいさつ運動の推進」と「いじめゼロ運動の推進」のため下記のような取組を行いました。

#### (1) 「あいさつ運動の推進」への取組

「あいさつ運動」は、学校園内各校独自で行っている他、「小中合同あいさつ運動」を今年度は前期に2回（7月4日、9月8日）、後期に1回（11月14日）の3回実施しました。小学生と中学生と一緒に「あいさつ運動」を行うことで小中連携の一助となりました。

戸祭小学校・・・執行部企画による週2回の登下校時のあいさつ運動

各学年有志によるあいさつ隊を結成、あいさつ運動への参加

上戸祭小学校・・・マナーアップ委員会による昇降口でのあいさつ運動（毎週木曜日に実施）

月の生活目標の中であいさつを奨励する

昭和小学校・・・代表委員会によるあいさつ運動(月2回)、認められる機会の充実

あいさつ運動への意識を高めるため、計画委員会による校内放送での呼びかけ

星が丘中学校・・・毎月、生活委員会による昇降口でのあいさつ運動

毎日の生活でのあいさつの励行



生活委員会によるあいさつ運動（星が丘中）



小中合同あいさつ運動（戸祭小）

#### (2) 「いじめゼロ運動の推進」への取組

いじめの未然防止や早期発見、早期解決のために下記のような取組を行いました。

ア いじめゼロ集会の実施（クロムブックやテレビ放送による劇・標語の発表 等）

イ 教育相談や三者・個人懇談の実施による悩み等の把握

ウ 各学級での指導（縦割り班での活動・いじめや人権に関する授業の実施・Q-U検査の活用 等）

エ 学校生活アンケートの実施によるいじめの早期発見

オ 学年会や職員会議、教育相談部会や生徒指導部会等での情報交換

カ 児童生徒指導に関する職員研修の実施

キ 情報モラル教育（講演会・職員研修 等）の実施

ク 学習発表会における生活委員会の寸劇（星が丘中）

#### (3) その他

・各学校とも「褒めて認める機会」を増やし、児童生徒を積極的に称賛することで自己肯定感や自己存在感を高める指導を展開し、児童生徒の健全な成長を目指しました。

・次年度に向け、「小中合同あいさつ運動」の活性化や、中学校進学時に小学校からの引き継ぎがスムーズに行われるよう情報交換を密にしていくことを確認しました。

### 2 不登校対策分科会

#### (1) 今年度の活動と成果、課題

児童生徒指導強化連絡会で、不登校傾向が見られる児童生徒についての情報交換を行い、共通理解を図ることができました。コロナ禍の影響で精神的にも不安定になる児童生徒の増加が懸念されます。児童生徒の実態を把握し支援すると共に、「折れない心」の醸成が今後の課題になると考えられます。

#### (2) 来年度に向けて

引き続き、不登校及びその傾向が見られる児童生徒についての情報交換を行い、しっかりと引き継ぎをする必要があります。小学校卒業から中学校入学の際のつまづきを軽減するための支援方法を考えていきたいです。

### 3 特別支援教育分科会

#### (1) 今年度の活動と成果, 課題

① 小中の情報交換会では、各校の今年度の活動の状況、来年度入学予定児童について、中学生の様子についてなどの情報交換をしました。中学入学に向けて身に付けておくとよい事柄や、必要な力などについても聞くことができ、大変有意義な会となりました。

② 小中交流会は、コロナウイルス感染症対策に十分配慮しながら、2月13日(月)に、進学予定の児童(6年生)のみで、中学校の説明、教室案内などを短時間で行いました。

6年生も緊張しながらの参加でしたが、中学校への関心や期待が高まったようです。中1ギャップの解消や、次年度にむけての各校児童生徒の実態把握などに役立つことと思います。



#### (2) 来年度に向けて

① 特別支援教育は、児童生徒への細やかな見取りや関わりが必要であり、情報の交換・共有がとても重要です。特別支援学級だけでなく、かがやきルーム通級者や通常学級に在籍する特別な支援を必要とする児童生徒についても小中連携を図り、より細かな情報共有を行い、一人ひとりの支援に生かしていきたいと考えています。

② 小中交流会は、中1ギャップを軽減するために、来年度も継続していく予定です。

## 星が丘地域学校園事務室

宇都宮市立学校の管理運営に関する規則に位置づけられている地域学校園事務室は、兼務発令を受けた事務職員が学校間の相互支援を通じ、学校事務の効率化を図るとともに学校園の運営に関する支援を行うため、学校事務を共同で実施する組織です。

#### (1) 今年度の活動と成果, 課題

学校事務の標準化・効率化を促進するとともに、事務職員の資質の向上を図ることを目的に今年度は下記の事業に取り組みました。

① 各校の「物品有効活用システム」の登載物品データを整備すると共に、星が丘地域学校園の「保有物品一覧」「貸出実績一覧」を更新しました。

また、「物品有効活用システム」についての職員向け周知資料の作成・周知を行いました。今後もシステムの積極的な活用を目指していく予定です。

② 予算の効果的・効率的な執行のために地域学校園単位で消耗品の共同契約を行い、物品購入の経費削減を図ることができました。また、養護分科会実施の「歯の磨き残しチェック」の薬剤・図書分科会実施の「しおり」の作成材料経費について、学校配当予算の「所管替」を行い一括購入し、経費を抑えることができました。

③ 就学援助事務について、受給申請や該当者一覧表の作成・管理、就学援助費の保護者への学校園同一支給日を設定し、小・中が緊密に連携した事務処理を行いました。また就学援助申請について、学校園共通の保護者宛て周知文書を作成し、事務の効率化を図りました。

④ 保護者の教育費設定の一助となるように、義務教育で必要となる経費について「9年間の教育費一覧表」を作成し、事務職員が各校の新入学保護者説明会で説明しました。

⑤ 事務職員のスキルアップを図るため、総合訪問や会計事務訪問に向けての関係諸帳簿の互審(確認)を実施しました。また、職員の扶養手当・住居手当・通勤手当についても互審を行い、疑問点について情報交換をすることによって、事務処理の精度を高めることができました。

#### (2) 来年度に向けて

来年度は、宇都宮市25の学校園事務室の共通取組課題を中心に、また、これまで実績を上げてきた多くの事業については継続して取り組んでいきたいと考えています。